

■高校野球のケーススタディー（第44回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 今季規則改正について

今回は前回に引き続き、投手に関する規則改正のうち、大きく変化のあったアマチュア野球内規③（windアップポジションの投手）の削除について解説します。

○ アマチュア野球内規「③windアップポジションの投手」の項目が削除について

投手に関わる2つ目の大きな規則改正になります。

本項目では、「windアップポジションをとった右投手が三塁（左投手なら一塁）に送球することは投球動作を変更して送球したとみなされるから、ボークとなる。」「投手が投球動作を起こして両手を合わせた後、再び両手をふりかぶることは、投球を中断したものとみなされる。投球動作を起こしたときは、投球を完了しなければならない。」という規定が国際基準に合わせるために削除となりました。そのため、windアップポジションをとる右投手が三塁（左投手なら一塁）へ直接その塁に踏み出して送球する（いわゆる牽制）ことが認められることとなり、投球動作については、公認野球規則 5.07(a)(1)通りの運用となります。

○ windアップポジションについて整理します。（野球審判員マニュアルより抜粋）

- (1) 打者に面して立ち、**両手を合わせて**、軸足を投手板に触れて置く。他の足はフリー。このポジション（両手を合わせた状態）から、投手は投球動作（自然な動き）を起こしたならば、中断または、変更をすることなく、その投球を完了しなければならない。
- (2) 打者に面して立ち、**両手を離れた状態**で（通常は身体の脇に下ろして）、軸足を投手板に触れて置く。他の足はフリー。このポジションから、投手は直接打者への投球に入る。このwindアップポジションから、投手が一旦手、腕、または足を動かせば、その投球を完了しなければならない。
- (3) 打者に面して立ち、両手を離れた状態で、軸足を投手板の上に置く。他の足はフリー。このポジションから（両手を離して）、**投手は捕手からのサインを受ける前に両手を一定の位置（“ポーズ”〈静止〉）に持ってくる。このwindアップポジションの場合、両手を身体の前方に持ってくる動作は、身体他の部分が同時に動きを開始し、実際に投球動作を伴わない限り投球動作が始まったとはみなされない。しかし、捕手からのサイン交換後に両手を動かす動作は、たとえ身体他の部分が動かなくても、投球動作を開始したものとみなされ、そのまま静止することなく投球を完了しなければならない。走者がいるときに静止したり、変更した場合はボークが宣告される。（ハイブリッドで投球する場合に注意）**

上記の（1）～（3）の姿勢から投球することが可能です。

注意点として、両手を離れた状態でサインを見た後、身体の前方で両手を合わせる動作は投球に関連する動作を開始したものとみなされます。従って、走者のいる場合、両手を離れた状態でサインを見た後、身体の前方で両手を合わせた後に静止すると投球に関連する動作の中断として**ブーク**となります。

○ 以下の事例はすべてブークの事例となります。すべて走者3塁を想定。

- 例1) 投手が打者に面して立ち、両手を合わせた状態から、軸足を引いた後、3塁へ牽制した。
- 例2) 投手が打者に面して立ち、両手を離れた状態からアームスイングを行った後、3塁へ牽制した。
- 例3) 投手が打者に面して立ち、両手を合わせた状態から、自由な足を上げ下げした後、3塁へ牽制した。
- 例4) 投手が打者に面して立ち、両手を離れた状態で捕手からのサイン交換後に両手を合わせ、静止した。
- 例5) 投手が「ハイブリッドで投げます」と申告し、球審がジェスチャーで明示した。両手を離れた状態で捕手からのサイン交換後に両手を合わせ、静止した。

※ハイブリッドで投球する場合もwindアップポジションのため、上記の(例1～4)で同様にブークとなります。

投球に関連する動作の開始としては、軸足を一步引くことやボディースイングやアームスイングを起こす等が含まれます。塁に送球する(けん制)ためには**直接その塁へ踏み出す**ことが必要となります。

国際基準に合わせる中でたくさんの変化が出てきています。投手がどの投球姿勢から投球するのか、投球に関連する動作はどこか、今までよりも更に投手に注視をして、今シーズンを始めましょう。

表題デザイン協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：日下部 心咲さん(74回生)